

阿南 ぱりまち紀行

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見！



「自分たちの街は自分たちで守ろう」をスローガンに、独自の防犯活動を展開している「自警団・はのうら」の皆さん。週2回の昼夜の防犯パトロールを主活動に、町内2小学校の通学路での立哨活動を毎朝欠かさず行っている。警察や学校等と連携した啓発活動にも積極的に、こうした幅広い自主防犯活動が「平成24年安全・安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰」の受賞につながった。

現在、会員は73人。「地域の安全を守る会」を母体に平成16年9月に結成。その背景には、全国的な犯罪傾向の高まりがあった。住民による自発的な防犯活動の重要性を訴え、行政主導型から地域主導型へ活動を発展させた。その狙いは、アメリカの犯罪学者が考案した「ブロークンウィンドーズ理論」にみることでできる。軽微な犯罪を徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるというもの。自警団が導入した町内パトロール、つまり「見える活動」が地



域社会の秩序を維持し、安全・安心なまちづくりにつながっている。全国の軽法犯認知件数が9年連続で減少していることが、それを証明しているのではないだろうか。

ところで、自警団の「自」は自分たちの「自」だという。活動目的に自主性を促す5原則を盛り込むなど、並々ならぬ思いが宿っている。そんな熱い思いに地域も応えた。活動拠点となる事務所は、土地も含めてすべて関係者の奉仕による。賛助会員も年々増え、持続可能な組織へと成長を遂げた。会長の平松政昭さん(71歳)は語る。「活動を始めて8年余り、体感治安は確実に良くなっています。名誉ある賞をいただいたことは、地域住民の努力のたまもの。会員の励みとなり、以前にも増して責任感が強くなりました。」

平成20年からは小学校の入学式にも参加している。安全・安心を願う黄色のユニフォームが、桜並木をくぐる子どもたちに温かな信頼の灯をともしている。